

宮田理事長、ラオスのダム決壊現場を訪問、OISDEからの寄付品を贈与

2018年7月23日、アタプー県で韓国らの合弁企業が建築していた「セーピアン・セーナムノイダム」が決壊、多数の死者と家屋が汚泥に埋まり、7000人以上の住民が家を失った。それから1年半も経つのに被災者住民がダム決壊現場から60キロも離れたアタプー市の郊外で未だに仮設住宅生活を余儀なくされている。住民たちは元のように農業に復帰したいと請願をしているが、中国資本がバナナの生産に乗り出し、住民たちを雇用しようとしている。しかし、この中国式バナナ栽培は大量の農薬を使い、土地や水が荒れてしまうので、住民たちは大反対である。正に人の不幸につけ込んだ中国のやり方にラオスの人々は憤懣を隠さない。また、このダム建築の主体であった韓国のSKという企業は、ラオス政府が施工不良を指摘したのにも拘らず、決してそれを認めず、住民への補償をしていない。仮設住宅にはこの韓国企業が支援しているが、殊更にそれを強調している看板に我々は腹立たしさを禁じ得なかった。

アタプー県の赤十字を通して OISDE からの寄付品を贈呈した。ダムから 60 キロ離れた地域まで水が押し寄せ、多くの家屋が破壊された。アタプーの郊外に住民たちの仮設住宅があり、多くの住民が長屋生活を余儀なくされている。



いつも、金属改修事業にご協力くださいまして本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。
ラオスやカンボジアを訪問したい方は随時、スタディー・ツアーを開催していますので、ご連絡下さい。

東京都中野区沼袋 1-44-2 03-3386-6605

oisdetokyo@gmail.com ホームページ oisde.com